

## ・はじめに

3月分の報告をさせていただきます。

## ・履修科目

今学期の授業について報告します。今学期は受講している内の2つについて報告します。

## ・履修科目

## 1. HIST227 Modern Japanese History

授業は明治維新について学んでいます。授業内でディスカッション等がある場合、出来る限り参加するようにはしているのですが正直難しいです。何について話しているかは授業内容から推測できるのですが、ちょっと話が逸れたり分からない単語が出てくるとお手上げです。最近の議論の大筋の内容として、日本の明治維新というのはrestoration（復元）なのかrevolution（革命）なのかという内容です。（訳が不適切な気がしますが、とりあえず鎌倉幕府以前の国家体制に戻ったのか、それとも新しい体制へと変化したのか、というふうには私は解釈していました。）

私自身ディスカッション内では明治維新は復元であるという立場で議論に参加していました。鎌倉幕府から武士が政治の実権を握るようになっていきましたが、最上位には天皇がいるという形式を有史以来一度も崩したことがありません。現に各時代の権力者たちは天皇の臣下（征夷大將軍や関白等の位を天皇から授与されているため）という立場で政治を行っていたのが大きな根拠です。そしてこれは完全に私の想像なのですが、革命と感じてしまう人というのは明治維新における戊辰戦争や西南戦争などが、他国の革命でよくある為政者を血祭りにあげる戦いというイメージを想起させているのではないのでしょうか（共感できないことはありませんが）。しかしながら革命が意味する社会構造の変化という点では、明治維新は当てはまらないと私は考えています。

とりあえず以上の内容を伝えることを考えると、それはまあ大変です。一応こちらから情報の発信はあらかじめ英訳していけばいくらだててできます。しかしリスニングの能力の無さが致命的すぎて言葉のキャッチボールを続けることができません。これは全世界の人間にイえるかと思いますが、細かいニュアンスや難しい内容を議論するときは母国語を使うのが一番だと私は強く思います。

## 2. EALC306 Japanese Literature in Translation

現在の授業では芥川龍之介の羅正門などを読んでいきます。題材に関しては高校時代に習った内容を覚えていたり、日本語で改めて読み直すこともできるので先ほどの授業よりも迷子になることが少ないです。作品に対する受け取り方について生徒ごとがそれぞれ受ける印象は千差万別なのは間違いなく、やはりそれぞれの家庭事情や生まれ育った国の社会構造によって異なるようです。このようなクラス環境で文学解釈などを教える授業を運営するのはさぞ大変だろうと最近になって強く思います。しかし逆に様々な価値観を持った授業だからこそ、様々な解釈が文学等の授業を運営することは非常に面白いことなのかもしれません。ある意味アメリカの大学における大きな強みの一つなのでしょう。

またこれは授業内容とは話が異なりますが、この授業を通して以前よりも日本文学に興味を持つようになった気がします。私は小説等を日頃から読む癖はありませんが、活字への苦手イメージは特にありません。しかしながら古典等はどうしても古臭い感じがして読むことに対して幾分か抵抗がありました。しかしこの授業で古典に触れている内に、現在の日本の娯楽等の様々な要素が内包されているのでは、と考えるようになりました。まあ考えてみると小説、アニメ、漫画それぞれの原作者は、それ以前の作品から何かしら影響を受けていることが十二分に考えられるため、過去の文学作品にそのルーツを感じるのは当たり前なのかもしれません。日本帰国後は色々と忙しいと思うのであまり余裕もないと思いますが、一息つけるときがあれば源氏物語などを読んでみたいと思います。

以上で報告を終わります。